

(実践報告)

# 新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症対応のため 遠隔実習となった成人看護学実習 (急性期) の教育の質を維持する取り組み

小園千草<sup>1)</sup> 武藤英理<sup>1)</sup> 岩崎淳子<sup>1)</sup> 堀 美保<sup>1)</sup> 北村真由美<sup>1)</sup>

## I. はじめに

2019年12月ごろ中国武漢市で確認された新型コロナウイルス (COVID-19) は、その後世界的に感染拡大していった。国内においても感染拡大の波は押し寄せ、緊急事態宣言が発出される事態となり、同年4月「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の改訂がおこなわれた (文部科学省, 2020)。さらに文部科学省 (2020) は同年5月に COVID-19 感染症拡大に伴う医療関係職種等の各種学校、養成所及び養成施設の対応として、「遠隔授業等の実施に係る留意点及び実習等の授業の弾力的な取り扱い等について」を通達した。

朝日大学 (以降本学) も社会情勢に鑑み、5月11日から予定していた対面授業はすべて中止とし、引き続き遠隔授業にて前期授業をすすめることを決定した。本学の看護学科においても、講義は遠隔となり、密接する機会が多く感染の危険性のある演習、実習等の授業科目も延期となった。成人看護学講座は、以上の状況や社会情勢、対象学生である4年生の学びを保証することや、COVID-19 感染のリスク回避といったことを総合的に検討した結果、2020年5月11日から成人看護学実習 I, II を受講する該当学生 24 名 (急性期 13 名, 慢性期 11 名) に限り、在宅における遠隔にて実習を行うことを決定した。

本稿では、COVID-19 の影響のため、在宅学習で実施した成人看護学実習 I (急性期・周手術期) について報告する。その構成は、①周手術期看護の理解を深めるための事前学習を生かした学生による講義資料作り②周手術期にある事例患者術後3日目までの情報を基にした看護過程の展開、③学修成果の個人発表資料作成となっている。また、在宅における遠隔実習でも学生間の意見交換によって学びが深められるように Moodle のチャット機能による学生カンファレンスを計3回開催した。以上の試みによって、実習目的、目標達成のために必要な今後の課題と学生の学びが明らかになったため、ここに報告する。

## II. 成人看護学実習 I の位置づけ

### 1. 成人看護学実習 I 急性期 (周手術期) 授業目的

急性期 (周手術期) にある成人とその家族に対し、発達段階や生活歴を踏まえた上でニーズを把握する。さらに病態、症状、検査、治療の意義、手術侵襲による生体への影響、術後の合併症とその予防策、心理・社会的影響について理解し看護実践方法を学ぶ。

### 2. 本稿で報告する成人看護学実習 I (急性期) の概要

成人看護学実習は、3年次後期～4年次前期、3単位 135 時間の中で展開する。2019 年度における成人看護学実習の最終クールは 2020 年 5 月 11 日から 3 週間の予定であった。

COVID-19 対応における当大学の基本方針として、1. 学年暦は変更しない、2. 前学期開講科目は原則として前学期中に終了することに加え、演習科目、実習科目については対面授業が可能になってから行うこととし、授業科目責任者の判断にて弾力的な方法を取りながら進めることが決定された。また、学内の授業は一部オンラインで実施されていたが看護学実習は、システム上オンラインでの実施が難しいと判断された。したがって、Web 会議システムを用いたオンラインは使用せず、在宅における遠隔実習にて実習を進めることとした。

---

1) 朝日大学保健医療学部看護学科 (成人看護学講座)

### Ⅲ. 遠隔実習における成人看護学実習 I の内容と方法

#### 1. 遠隔実習における成人看護学実習の事前準備

遠隔実習において、成人看護学実習 I 急性期 (周手術期) の実習目的、目標の達成のためにどのように授業展開をすべきか、成人看護学の教員間にて話し合いを重ね、遠隔にて実習を行う際の課題として以下の3点をあげた。

- 1) すべての実習日程が遠隔のため、個々の学生の学習進度の把握、指導を効果的に行うためにはどのような方法が適しているか
- 2) 在宅遠隔実習にて、周手術期における臨場感のある対象者の身体的、心理的变化を知り、尚且つ、既習で学んだ知識、技術をもとに対象者に必要な看護実践能力を学ばせるにはどのように授業計画を立てるべきか
- 3) 在宅遠隔実習にて個別で学ぶ学生に学習上の不利益を講じさせず、尚且つ学生を学習過程に能動的に関与させるためには教員はどのように支援すべきか

教員は3週間の実習期間中に対面指導ができない。このような学習環境を考慮し、事前に、自宅学習課題指示書 (図1, 図2)、実習記録用紙、返送用封筒などを学生宅へ郵送した。学習予定表の内容は、①全日程の詳細な情報と学習すべき内容、②2週目以降の課題である周手術期における事例患者の情報とした。事例患者の情報は、実際に手術を受ける患者から得られるような臨場感のある内容にするとともに、術前・術中・術後1日目までの情報を時系列に示した。また、実際に臨床実習で対象者の反応などの情報を得ることを学生に経験させるために、術後2日目と3日目の情報は、術日数にあわせた当日の朝に Moodle 上に情報公開することを周知させた。さらに、Moodle 上に講義指示書や Moodle 使用方法 (出席確認・実習終了方法、カンファレンス編) をアップし、実習前から学習の進め方がイメージできるように工夫した。

#### 2. 遠隔による成人看護学実習 I (急性期) の日程と内容 (図1, 図2)

今回の対象学生は、成人看護学実習 I 以外のすべての領域実習を終えており、本実習が最後の臨地実習であった。3名の教員が、1グループ4～5名の学生で構成される3グループ13名の学生を担当した。担当教員は、毎日学生とメールや電話にてコミュニケーションを取り、学生の学びの状況を把握し、質問対応しやすい環境を整えた。

### Ⅳ. 結果

COVID-19 感染拡大対策のためとはいえ、遠隔にて実習が行われるという初の試みは、該当学生にとっても不安が大きいと予測された。したがって、まずはどのように実習が進められていくか、学習の到達度を判断する提出物はいつまでに用意すべきかといった情報を学生が常に確認できるように工夫した。その結果、一部の学生からは初めに郵送した術後1日目の事例をどこまでアセスメントして看護計画を立案すべきかといった質問や、看護計画の立案と紙面上の看護計画の実践をどのように記録するとよいのかといった質問がみられたが、その場で個々の学生に対応することで解決できた。実習終了後の学生からのリアクションペーパーの意見は、“わからない点や記録についての的確にアドバイスをもらえた”、“自分のペースで実習をすすめられた”、“滞りなく終了できた”といった内容であり、当初危惧していた学習上の不利益が生じたといった内容は見当たらなかった。また、一部の学生は、“教員と毎日意見交換することで学びが深まった”、“Moodle によるカンファレンスにて他学生と意見交換することで広い視野で考える事につながられた”、“カンファレンスがチャット形式だったので後から意見を見直すことができよかった”といった反応であった。実習評価については、臨地実習と同様とした。在宅における遠隔実習では、「実践できる」という項目に対して、術後1日目からの課題である看護計画に基づいた離床援助手順を具体的に記入させ、その内容が実践可能な内容であるということが「実践できる」として捉えて評価した。

月日		内 容
5月11日	月	・実習オリエンテーションはオンラインで実習後各自実習要綱を熟読する ・午後から実習前テストを実施する
5月12日	火	・事前学習内容（慢性期：糖尿病，急性期：大腸がん）についての講義資料作成
5月13日	水	・事例課題を行う
5月14日	木	・事例による看護過程の展開（事例を読み解く） わからない用語については調べ、追加学習が必要な場合はフリー用紙に記入すること
5月15日	金	・アセスメントシートの記入 ・問題の抽出
5月18日	月	・事例による看護過程の展開 ※ 18日～22日の内容に関しては別紙参照 ・18日は14:00から各実習グループで Moodle にてカンファレンス
5月19日	火	
5月20日	水	
5月21日	木	
5月22日	金	
5月25日	月	・実習記録の見直し ・14:00から各実習グループで Moodle にてカンファレンス
5月26日	火	・個人発表の準備
5月27日	水	・個人発表の作成
5月28日	木	・午前：実習補振り返り用紙の記入 ・午後：14:00から各実習グループで Moodle にてカンファレンス
5月29日	金	・実習記録まとめ，自己評価 ・実習記録の提出

あなたは、朝日さんの担当看護師です。

術後1日目に医師の診察の後に朝日さんに離床の許可ができました。

事例の術後日数にある情報をふまえ、安全に留意しながら朝日さんの回復を促す離床の援助を考えてください（立案した看護計画をふまえること）。

指定の記録用紙に具体的に（手順も含め）記載してください。

※ Moodle にて出席確認後に術後2日目、3日目の事例患者の情報をお知らせします。

以下の3点がポイントになります。

- ①安静による回復遅延を避け、術当日の状態から早期離床を考える。
  - ②病態・リスクを評価し離床可能かどうか常に評価する。
  - ③離床のメリットの説明や介助の工夫で患者から協力を得る。
- ① 術後1～3日目の朝日さんの状況にあった看護計画かどうかを確認する（毎日看護計画の修正をする）。
  - ② 看護師として術後1～3日目、それぞれの回復過程に応じた離床の援助の場面を想定する。  
ナースチャンネル：周手術期（術前・術中・術後）参照。
  - ③ 朝日さんに具体的にどのような援助をするか誰が記録をみてもイメージできるよう援助行動を記録用紙Aに書く。
    - ・朝日さんの援助時の状況についての説明と、なぜこの看護援助や声かけが必要なのかの説明も加える
    - ・看護計画の内容をふまえた離床の援助を考え、その内容を記録する
    - ・看護計画ごとにその都度計画内容の修正をする
    - ・3週目の最終日(5/22)に看護計画の評価を記録する
  - ④ 学修目標を明確にして決められた課題に取り組む。

図1. 遠隔による成人看護学実習Ⅰ 講義指示書（一部抜粋）

日時	5/14 (木)	5/15 (金)	5/18 (月)	5/19 (火)	5/20 (水)	5/21 (木)	5/22 (金)
目標	情報収集 / アセスメント	看護問題抽出	看護計画立案	看護計画実践 / 修正	看護計画実践 / 修正	看護計画実践 / 修正	看護計画評価
午前	<b>9:00 出欠確認</b> Moodleにて確認 ※9:00までに担当教員に本日の目標と行動計画、留意点をメールにて送る(それを元に指導する) <b>9:10 行動計画発表</b> 担当教員から本日の行動目標、行動計画の指導を受ける(メールまたは電話) <b>10:20 事例患者情報の調べ学習</b> 事例患者の情報内容などでわからないところを調べる。						
			ナーシング・チャンネル 術後看護の動画も参考にする	Moodleにて出欠確認後、ファイルにある術後の患者情報を受け取る。 ・5/20には術後2日目、5/21には術後3日目の情報あり。			
		<b>10:20 アセスメントから導いた看護問題の抽出</b>	<b>10:00 看護計画立案</b>	<b>10:00 看護計画実践 シミュレーション</b> 指定の記録用紙にどのように離床援助をしたか具体的に記録			
	ナーシング・チャンネルの「周手術期(術前・術中・術後)」、「手術」を参考に「対象を取り巻く医療職種」をテーマにレポートを書く						
午後	<b>12:00 ~ 13:00 昼休憩</b>						
	<b>13:00 情報収集アセスメント</b> ※出席確認(不定期) 担当教員が電話で学修進度を確認 ※電話、メールにての質問、指導は実習時間内に受け付ける。	<b>13:00 看護問題抽出</b>	<b>13:00 情報収集、アセスメント</b>	<b>13:00 看護計画実践・シミュレーション</b>			
			14:00 ~ 15:00 Moodleによるカンファレンス	<b>14:00 看護計画の修正</b>			<b>14:00 看護計画評価</b>
	<b>15:30 実習終了</b> Moodleにて確認 担当教員の指示したがう						

図2. 遠隔による成人看護学実習 I (急性期) の実習内容と日程

## V. 考察

成人看護学実習 I (急性期・周手術期) は、術前、術中、術後にある対象者とその家族の身体的、心理的反応、特に手術・麻酔に関連した侵襲による生体反応をアセスメントする。また、日々の対象者の状態を観察し、術後回復促進と術後合併症予防の看護援助をタイムリーに行わなければならない。したがって、舟島が述べている「クライアントとの相互作用の展開」、「そこに生じた看護現象を教材にする」といった臨地実習の特徴から学びを得やすい授業であるといえる(舟島, 2020)。このことから、在宅学習にて成人看護学実習 I の実習目的、目標を達成し、効果的な授業内容にするためには、リアリティのある周手術期の「クライアントとの相互作用」、「そこに生じた看護現象」を事例に取り入れつつ、教員による日々の実習指導の創意工夫が重要であると考えた。今回は、学生への学びの保証のためにやむを得ない試みであり、教員も試行錯誤を重ね、その都度

最善の方法を模索しながら対応した。しかし、この試みによって臨地実習でしか学び得ない内容と学内や遠隔でも代替できる内容が明らかになった。臨地実習でしか学びえない内容としてあげられたのは、対象者とその家族の身体的、心理的反応の変化である。特に周手術期にある患者は日数に応じて刻々と身体面、心理面が変化していく。臨地実習では、事前に予測していても、当日の朝に病棟に来てみると患者の状態が変化しており、学生がその計画を修正することはよくあることである。そこで、臨地でよくある変化を経験してもらう工夫として術後2日目、3日目の患者の訴えやバイタルサイン、検査データ、医師の指示等の情報を当日の朝に公開した。また、ナースングチャンネルを視聴させることで学生がイメージしやすいように工夫した。しかし、一部の学生は手術1日目における患者の手術・麻酔に関連した侵襲による身体的・心理的变化を認識することに時間を要した。これは、手術1日目の情報を術前、術直後とともに情報公開したことも要因の一つと考えられるが、実際に確認できない術後患者をイメージ化することが困難であったとも考えられる。一方、学内や遠隔でも代替できる内容として周手術期にある患者の看護過程の展開があげられた。臨地では、周手術期の患者は術日数に応じて刻々と変化していく。周手術期における実習では、学生がその変化の速さについていけず、その場に応じた看護計画の立案や実践が間に合わず、後追いで学びを深めるといったことが度々みられる。今回は、周手術期における患者の看護過程を通して既習の知識の確認、看護アセスメント力といった、周手術期における看護の意味を考えさせる力を強化した。しかし、立案した看護計画を実践することが紙面上上となったため、実践して気づくといった学びを得ることが困難であった。

Moodleによるカンファレンスの開催は、同一事例を受け持った各学生の看護計画の発表と意見交換の場とした。実習終了後の学生から、“同じ事例でも他学生はこのような考え方をするのかという新たな気づきがあった”といった反応があったことから、効果的な試みであったと考える。今後はオンラインで対面会議が可能なZoomなどの活用を検討することも必要ではないかと考える。

## VI. おわりに

成人看護学実習の施設である実習病院は今まさにこの時もCOVID-19感染者の看護に従事しており、学生と患者の安全に配慮しつつ実習にご協力していただいている。COVID-19はいまだ終息の兆しがみられず、今後も臨床における実習が難しくなる可能性も否定できない(文部科学省, 2020)。本稿では、COVID-19対応による遠隔実習という想定外の実習の実践報告にとどまったが、今後は、遠隔実習における学生の学びと課題を検証し、同様の事態に遭遇した場合でも実習目的、目標を達成できるような実習内容を検討し続けることが必要であると考え。

本稿には記載すべき利益相反はない。

## 文 献

- 落合亮太, 青盛真紀, 徳永友里, 菅野雄介, 池田由美子, 朝田亜里彩, 渡邊眞理, 渡部節子 (2020). 横浜市立大学成人看護学領域におけるコロナ禍での看護教育の試み. 看護研究, 53 (6), 466-472.
- 中村貴美子, 井上佳代, 大西和子 (2020). 成人看護学(慢性期)オンライン実習の試み. 看護教育, 62 (01), 50-55.
- 舟島なをみ (2020). 看護学教育における授業展開 第2版. 205-206, 医学書院, 東京.
- 文部科学省 (2020). 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針.  
[https://corona.go.jp/expert-meeting/pdf/kihon\\_h\\_0514.pdf](https://corona.go.jp/expert-meeting/pdf/kihon_h_0514.pdf), 2020-05-14.
- 文部科学省 (2020). 遠隔授業等の実施に係る留意点及び実習等の授業の弾力的な取り扱い等について.  
[https://www.jda.or.jp/dentist/coronavirus/upd/file/20200507\\_coronavirus\\_enkakujuugyo\\_toriatsukai.pdf](https://www.jda.or.jp/dentist/coronavirus/upd/file/20200507_coronavirus_enkakujuugyo_toriatsukai.pdf), 2020-05-01.